

2016年度第1四半期決算説明資料

2016年7月29日

川崎重工業株式会社

目次

I. 2016年度第1四半期連結決算の概要

◇ 2016年度第1四半期決算実績 サマリー	3
◇ 2016年度第1四半期決算実績 セグメント別	4
◇ 前年同期比損益計算書の概要	5
◇ セグメント別決算実績	
船舶海洋	6
車両	7
航空宇宙	8
ガスタービン・機械	9
プラント・環境	10
モーターサイクル & エンジン	11
精密機械	12
◇ 貸借対照表の概要	13
◇ キャッシュ・フローの概要	14

II. 2016年度業績見通し

◇ 連結受注高・売上高・利益見通し	15
◇ セグメント別通期業績見通し	16
◇ セグメント別税前ROIC等の推移	17
◇ 研究開発費・設備投資・期末従業員数	18
◇ <参考資料> オフショア船事業の状況	19
ヒストリカル・データ	21

第1四半期決算実績 サマリー

(億円)

	2015年度 1Q	2016年度 1Q	増減	前年同期比
受注高	3,437	2,586	▲851	【受注高】 プラント・環境を中心に減少
売上高	3,400	3,398	▲1	【売上高】 建設機械の譲渡等に伴う減収の 一方で、プラント・環境や船舶海洋 等の増収により、全体では前年同 期並み
営業利益	148	159	+11	【利益】
経常利益	153	57	▲96	● モーターサイクル&エンジンや 航空宇宙等の増益により、営 業利益は増益
親会社株主に帰属する 四半期純利益	74	47	▲26	● 為替差損の増加等により経常 利益および親会社株主に帰属 する四半期純利益は減益

売上加重 平均レート	ドル (¥/\$)	120.73	110.58
	ユーロ (¥/EUR)	132.37	126.57

(参考)1Q決算実績におけるNET外貨売上高 (億外貨)

ドル	ユーロ
4.6	1.0

第1四半期決算実績 セグメント別

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2015年度 1Q	2016年度 1Q	増減	2015年度 1Q	2016年度 1Q	増減	2015年度 1Q	2016年度 1Q	増減
船舶海洋	172	22	▲149	234	311	+76	▲5	6	+12
車 両	469	232	▲236	321	288	▲33	15	7	▲7
航空宇宙	526	416	▲109	760	800	+40	84	95	+10
ガスタービン・機械	352	506	+154	519	491	▲28	36	32	▲3
プラント・環境	553	180	▲373	234	317	+82	▲1	6	+7
モーターサイクル&エンジン	721	692	▲28	721	692	▲28	▲10	3	+13
精密機械	311	331	+19	299	329	+29	18	21	+2
そ の 他	329	202	▲127	307	167	▲140	8	7	▲1
調 整 額*	-	-	-	-	-	-	2	▲19	▲21
合 計	3,437	2,586	▲851	3,400	3,398	▲1	148	159	+11

* 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

前年同期比損益計算書の概要

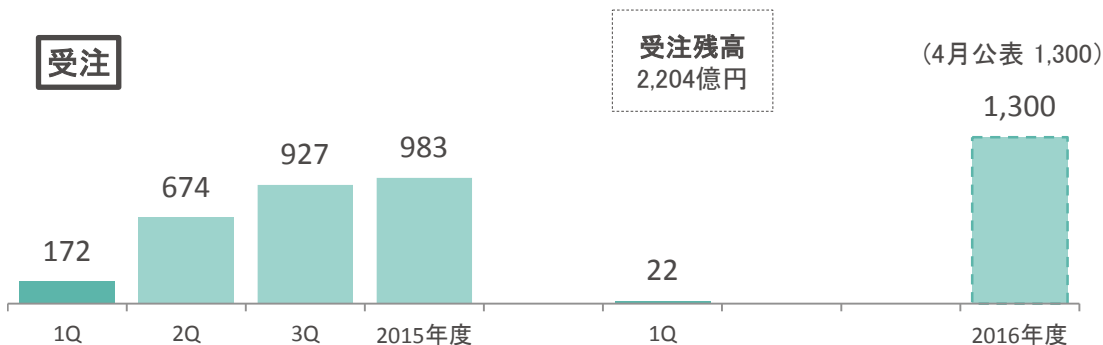
			2015. 1Q	⇒	2016. 1Q
【営業損益】	前年同期比	+	11 億円	(148 億円 ⇒ 159 億円)
・売上高		▲	1 億円	(3,400 億円 ⇒ 3,398 億円)
・売上原価		▲	10 億円	(2,812 億円 ⇒ 2,802 億円)
・販売費および一般管理費		▲	2 億円	(439 億円 ⇒ 437 億円)
うち給料および手当		▲	3 億円	(124 億円 ⇒ 120 億円)
うち研究開発費		+	7 億円	(86 億円 ⇒ 94 億円)
【営業外損益】	前年同期比	▲	107 億円	(5 億円 ⇒ ▲ 102 億円)
・金融収支（受取配当金を含む）		+	1 億円	(▲ 5 億円 ⇒ ▲ 4 億円)
・持分法による投資利益		+	6 億円	(2 億円 ⇒ 9 億円)
・為替差損益		▲	111 億円	(▲ 2 億円 ⇒ ▲ 113 億円)
・その他		▲	4 億円	(11 億円 ⇒ 6 億円)
【特別損益】	前年同期比	+	22 億円	(- 億円 ⇒ 22 億円)
・固定資産売却益		+	22 億円	(- 億円 ⇒ 22 億円)

船舶海洋

主要製品： LNG船、LPG船、オフショア船、ばら積み運搬船、潜水艦

(億円/各期の数値は累計)

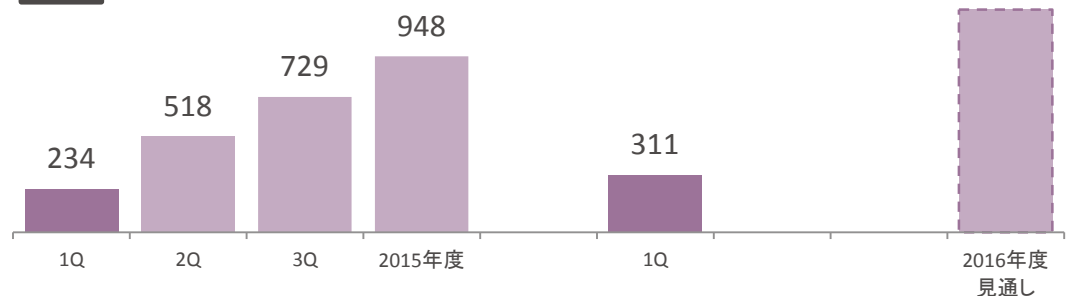
受注



受注残高
2,204億円

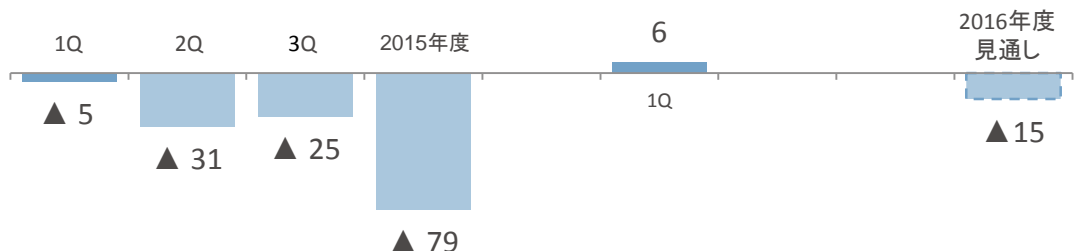
(4月公表 1,300)

売上



(4月公表 1,200)

営業利益



(4月公表 ▲15)

当第1四半期実績

(前年同期比)

- 受注** 新造船需要の低下により減少
- 売上** 円高の影響はあったものの、LNG運搬船やLPG運搬船、潜水艦の工事量の増加等により増収
- 営業利益** 増収や円高に伴う貸倒引当金戻入益等により損益改善

2016年度見通し

(前期比)

- 受注** 防衛省向け潜水艦の受注により増加
- 売上** ガス船の建造量の増加により増収
- 営業利益** 受注工事損失引当金の繰入があった前期に比べ改善

<新造船の受注・売上隻数>

(隻)

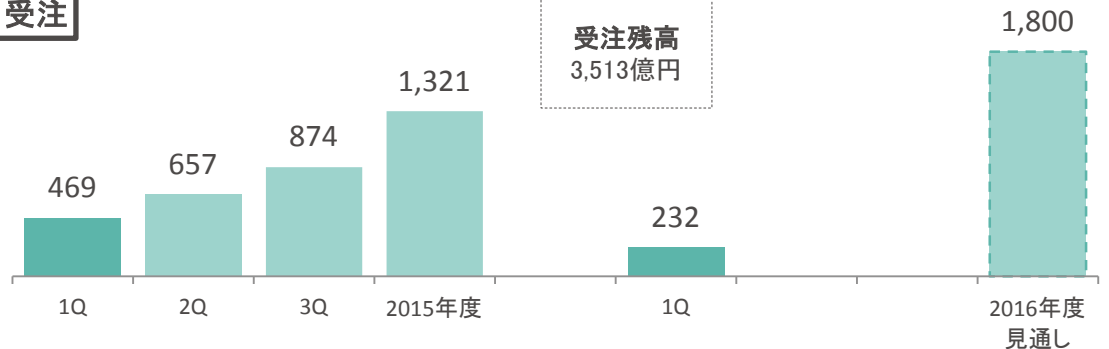
	受注(1Q)		売上(1Q)			
	2015年度	2016年度	2015年度		2016年度	
			完工	進行基準	完工	進行基準
LNG船				4	1	8
小型LNG船						
LPG船	2			2		4
オフショア船						
ばら積み運搬船	1		1	2		1
潜水艦				1		2
深海救難艇				1		1
合計	3	0	1	10	1	16

	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 見通し
税前ROIC	6.0%	▲38.4%	1.0%

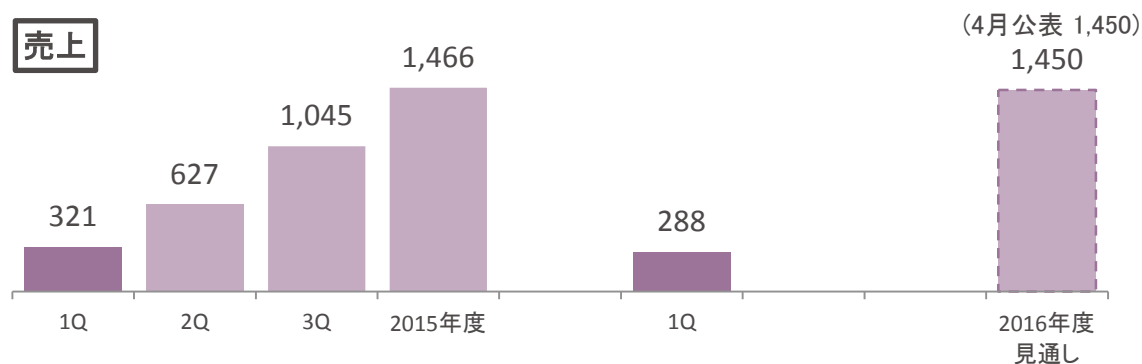
車 両

主要製品： 各種電車（新幹線含む）、機関車、客車、台車、ギガセル（二次電池）（億円/各期の数値は累計）

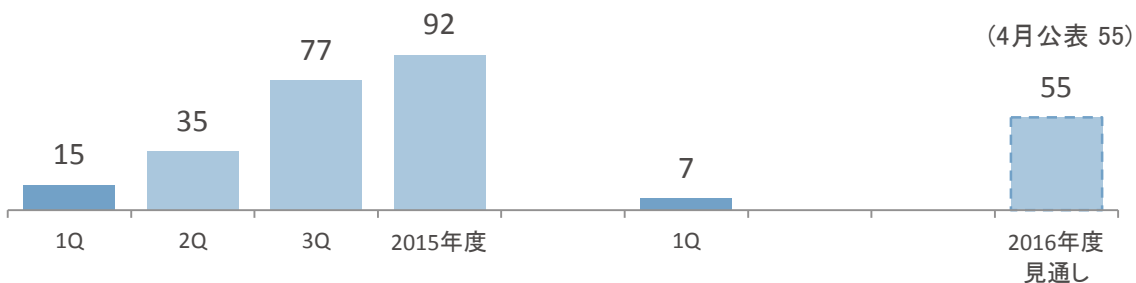
受注



売上



営業利益



当第1四半期実績

（前年同期比）

受注 北米向けで大口案件を受注した前年同期に比べ減少

売上 海外向け部品の減少等により減収

営業利益 減収および利益率の低下等により減益

2016年度見通し

（前期比）

受注 海外案件の増加により増加

売上 国内向け、海外向けともに大きな変動は無く前期並み

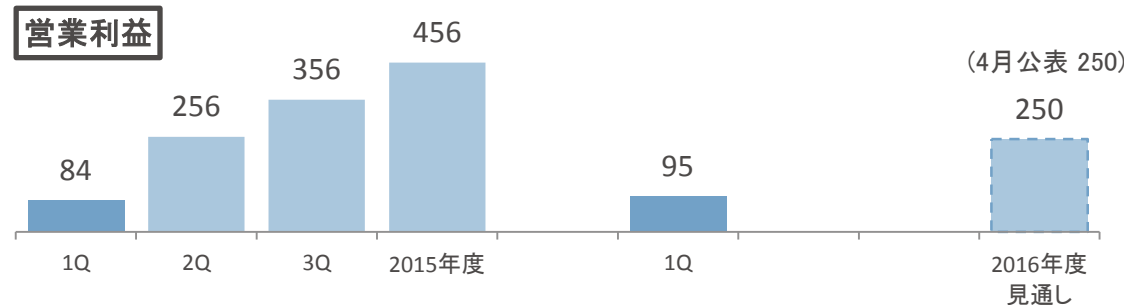
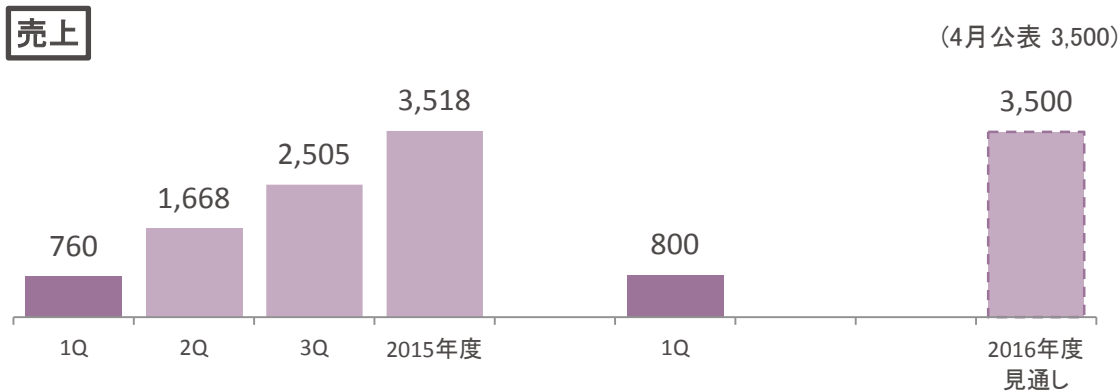
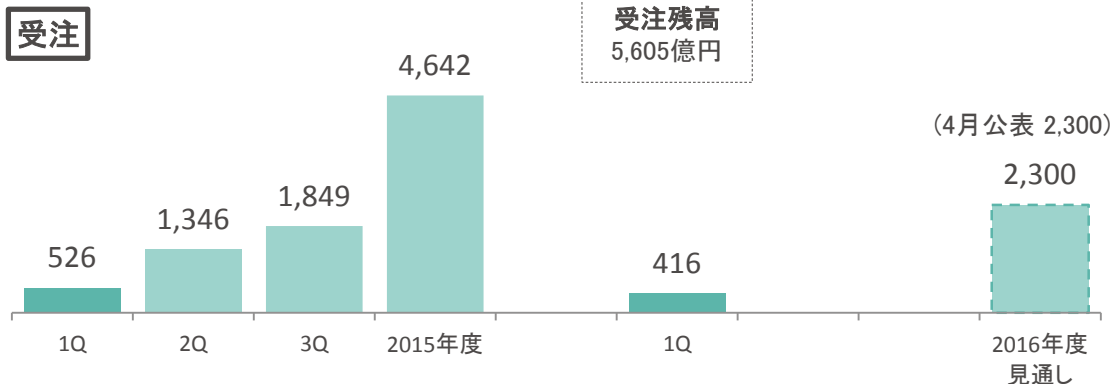
営業利益 収益性低下等により減益

	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 見通し
税前ROIC	8.7%	11.7%	8.0%

航空宇宙

主要製品： 防衛航空機、民需航空機分担製造品、民間向けヘリコプター、誘導機器・宇宙関連機器

(億円/各期の数値は累計)



当第1四半期実績

(前年同期比)

受注 円高の影響や民間航空機向け分担製造品の減少等により減少

売上 円高の影響はあったものの、防衛省向けの増加や民間航空機向け分担製造品が高水準を維持したこと等により増収

営業利益 増収等により増益

2016年度見通し

(前期比)

受注 防衛省向けの減少等により減少

売上 防衛省向けは増加するものの、民間航空機向け分担製造品の減少や円高の影響により前期並み

営業利益 円高の影響および民間航空機向け分担製造品の収益性低下により減益

<民需分担製造品の売上機数> (機)

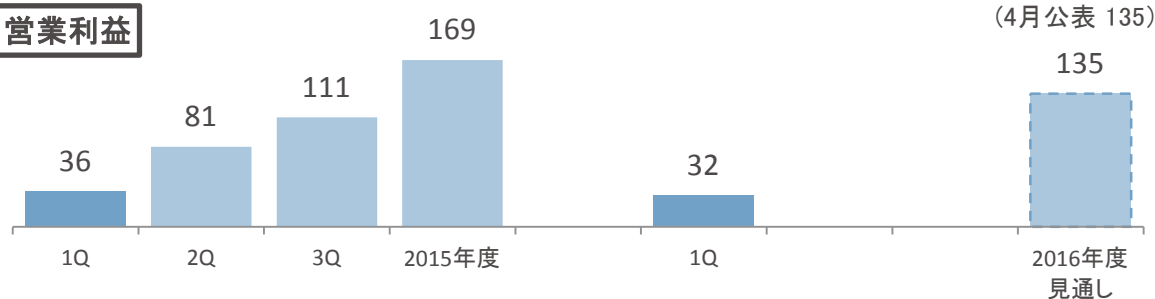
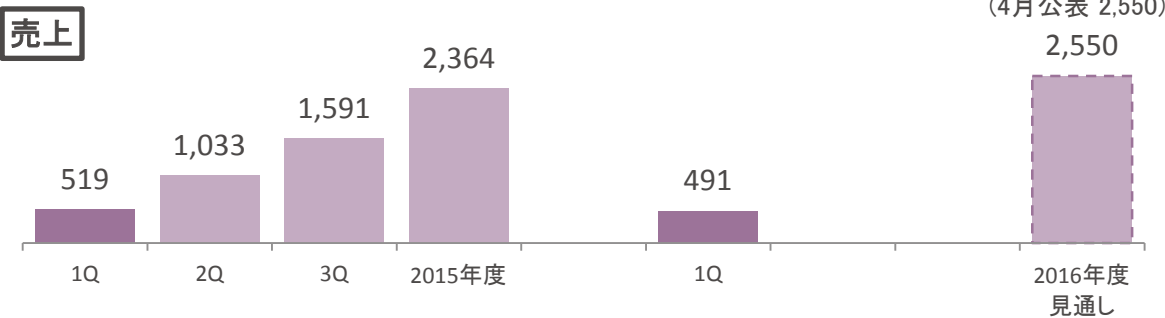
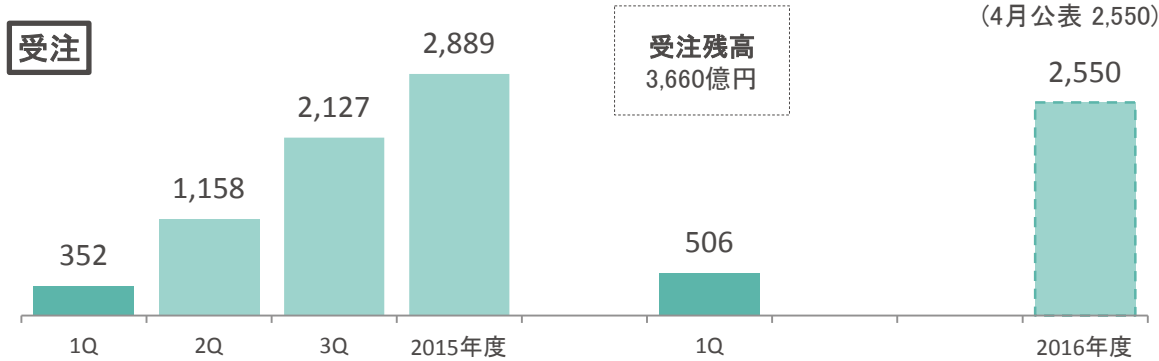
	2015年度1Q	2016年度1Q
Boeing 777	26	26
Boeing 767	4	6
Boeing 787	32	33
Embraer170/175	18	18
Embraer190/195	0	6

	2014年度実績	2015年度実績	2016年度見通し
税前ROIC	35.1%	33.9%	13.5%

ガスタービン・機械

主要製品: 航空機用エンジン、産業用ガスタービン・コージェネレーション、
ガスエンジン、ディーゼル機関、陸用・船用タービン、空力・水力機械

(億円/各期の数値は累計)



当第1四半期実績

(前年同期比)

受注 国内向けガスエンジンの増加等により増加
売上 航空エンジン分担製造品は増加したものの、防衛省向けの減少や円高の影響等により減収
営業利益 減収により減益

2016年度見通し

(前期比)

受注 受注が前期に集中した航空エンジン分担製造品や船用製品の減少等により減少
売上 航空エンジン分担製造品やガスエンジンの増加等により増収
営業利益 増収による増益はあるものの、円高および航空エンジン分担製造品の初度費負担増加等により減益

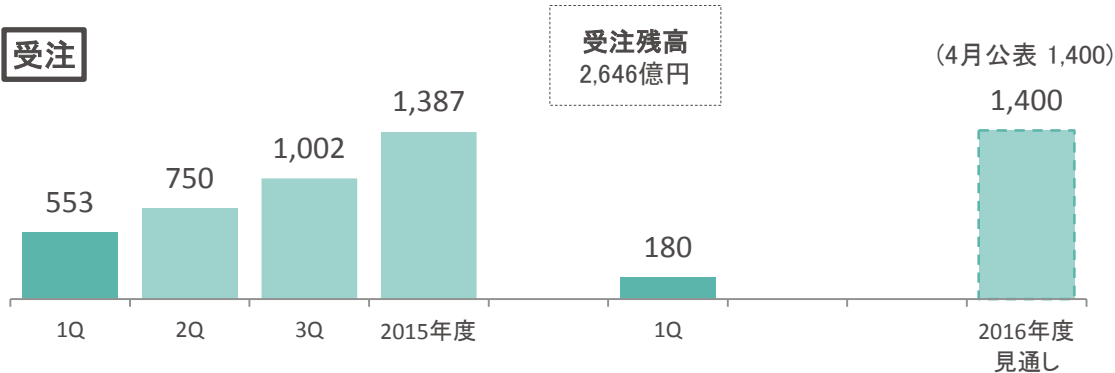
	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 見通し
税前ROIC	5.7%	8.8%	6.3%

プラント・環境

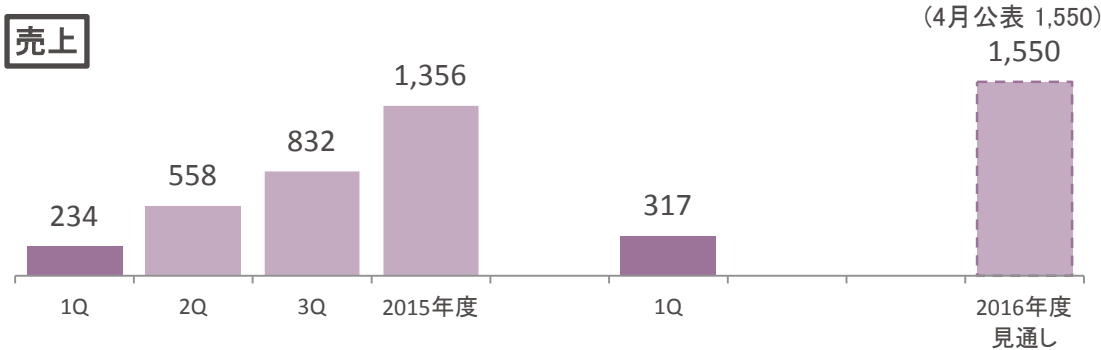
主要製品： 産業プラント(セメント、肥料等)、発電プラント、LNGタンク、
ごみ焼却プラント、トンネル掘削機、破碎機

(億円/各期の数値は累計)

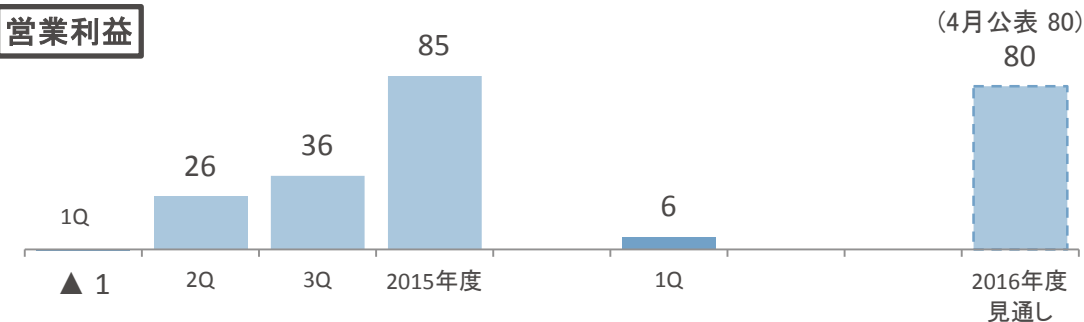
受注



売上



営業利益



当第1四半期実績

(前年同期比)

受注 国内向けごみ焼却プラント等の大口案件を受注した前年同期に比べ減少

売上 海外向け化学プラントの工事量増加等により増収

営業利益 増収により損益改善

2016年度見通し

(前期比)

受注 国内向けごみ焼却プラント等の受注により増加

売上 海外向けプラントの増加により増収

営業利益 増収となるものの、工事費の増加による収益性低下等により減益

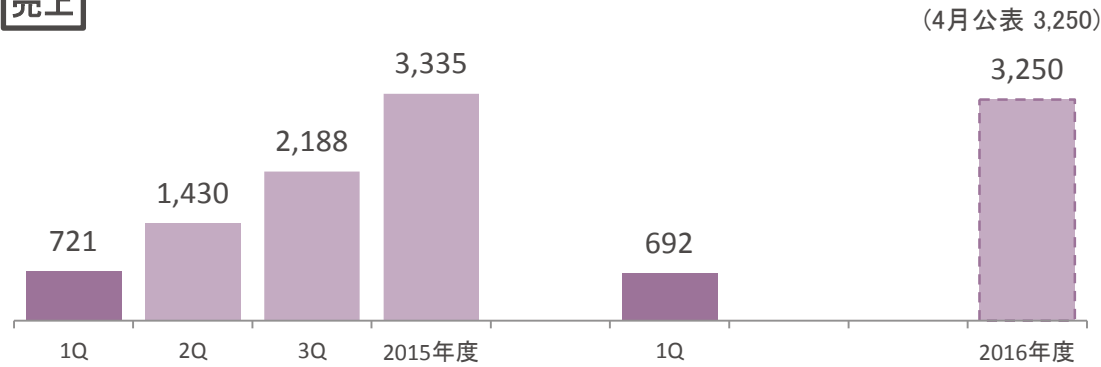
	2014年度実績	2015年度実績	2016年度見通し
税前ROIC	14.3%	17.5%	16.3%

モーターサイクル&エンジン

主要製品： 二輪車、多用途四輪車、四輪バギー車(ATV)、
パーソナルウォータークラフト、汎用エンジン

(億円/各期の数値は累計)

売上



(4月公表 3,250)

売上

当第1四半期実績

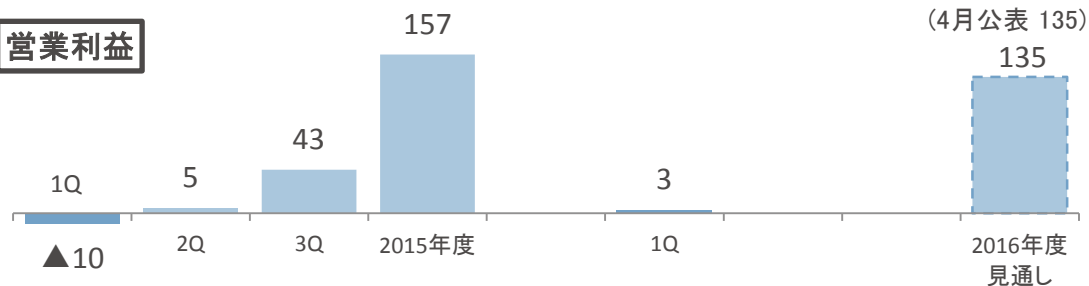
(前年同期比)

先進国向け二輪車や四輪車が増加したものの、円高の影響や汎用エンジンの減少等により減収

営業利益

減収による減益はあったものの、モデルミックスの好転等により損益改善

営業利益



(4月公表 135)

売上

2016年度見通し

(前期比)

インドネシア向け二輪車の減少および円高の影響により減収

営業利益

減収により減益

<コンシューマー向け製品 地域別売上(卸売)台数・金額> (千台、億円)

	2015年度				2016年度			
	1Q		通期		1Q		通期見通し	
	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額
国内	6	42	15	132	4	39	16	136
北米(カナダ含む)	18(11)	189	105(51)	1,122	22(10)	188	113(54)	1,066
欧州	15	136	64	552	19	150	64	518
新興国等	64	215	340	1,063	73	208	319	1,019
合計	103	582	524	2,869	118	585	512	2,739

注1)二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト(「ジェットスキー」)及びこれらの関連製品を含む。

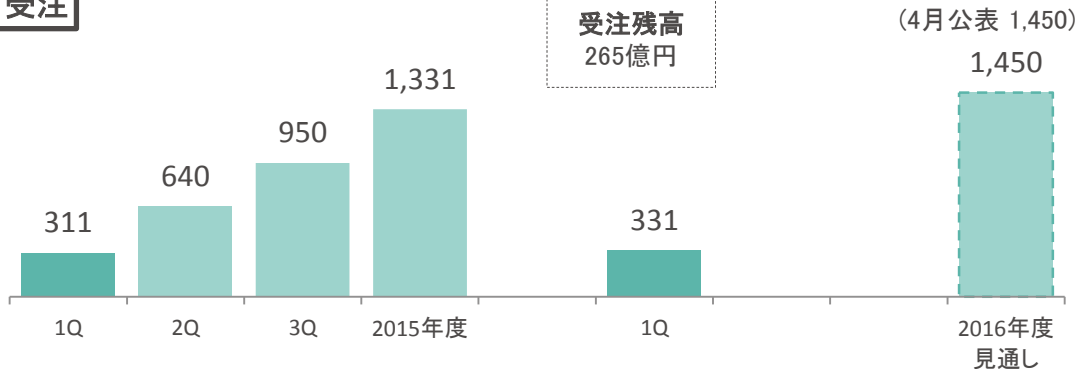
注2)括弧内は二輪車分を示す。(内数)

	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 見通し
税前ROIC	7.3%	14.1%	10.2%

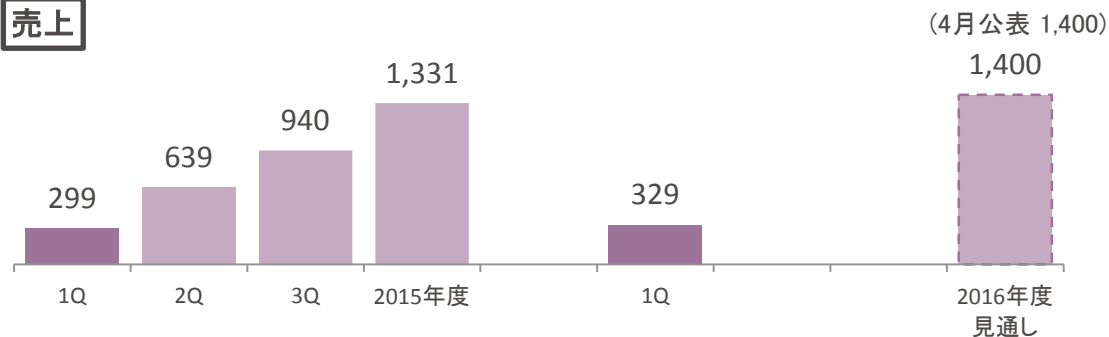
精密機械

主要製品： 建設機械用油圧機器、産業機械用油圧機器・装置
 船用舵取機、船用各種甲板機械、産業用ロボット、医薬・医療ロボット
 (億円/各期の数値は累計)

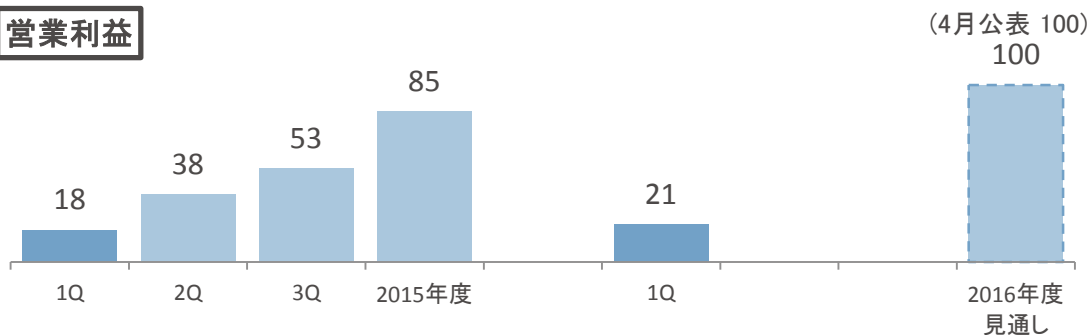
受注



売上



営業利益



当第1四半期実績

(前年同期比)

- 受注** 各種産業用ロボットの増加等により増加
- 売上** 各種産業用ロボットや油圧機器の増加等により増収
- 営業利益** 増収により増益

2016年度見通し

(前期比)

- 受注・売上** 各種ロボットの増加により増加
- 営業利益** 増収により増益

	2014年度実績	2015年度実績	2016年度見通し
税前ROIC	16.7%	9.5%	10.8%

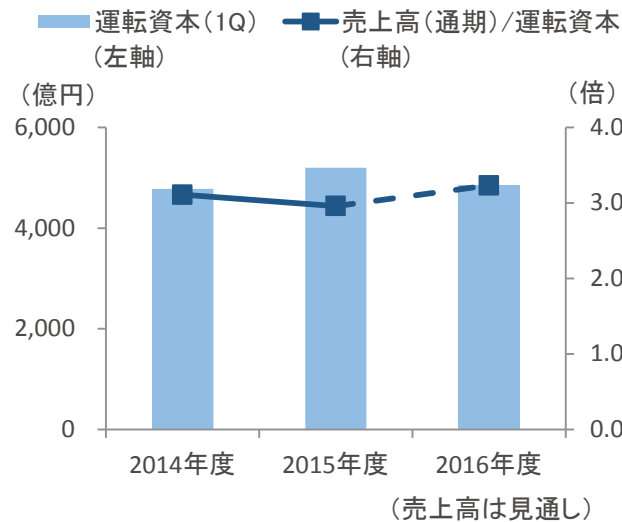
貸借対照表の概要

(億円)

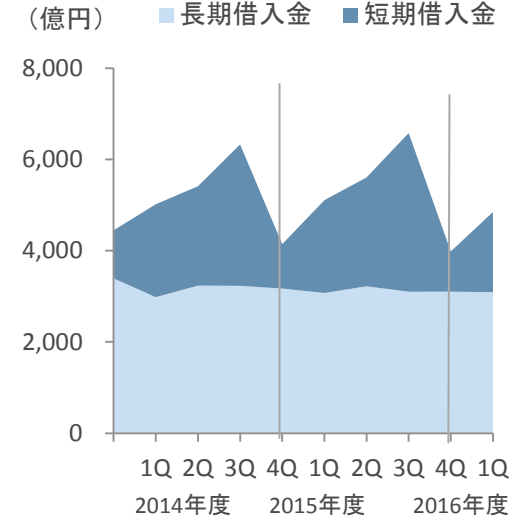
	2015年度末	2016年度 1Q末	増減
現預金	421	391	▲30
売掛債権	3,813	4,013	+200
棚卸資産	4,929	4,988	+59
有形・無形固定資産	4,520	4,485	▲34
その他資産	2,519	2,596	+76
資産計	16,204	16,476	+271
買掛債務	3,217	2,981	▲236
借入債務	3,984	4,846	+862
前受金	1,704	1,695	▲8
その他負債	2,841	2,706	▲135
負債計	11,748	12,229	+481
株主資本	4,384	4,315	▲69
その他純資産	72	▲68	▲140
純資産計	4,456	4,246	▲209
負債・純資産計	16,204	16,476	+271

自己資本比率	26.6%	24.9%
NET D/Eレシオ	82.5%	108.3%

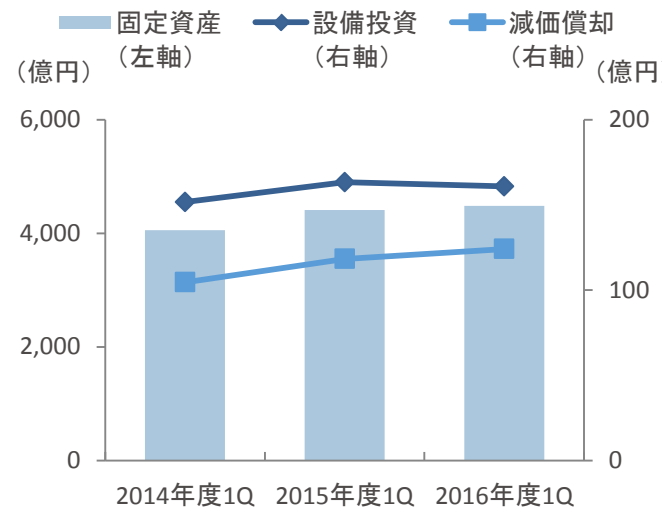
【運転資本の推移】



【有利子負債の推移】



【設備投資等の推移】



【貸借対照表の概況】

当四半期末の総資産は、売掛債権の増加や前受金の増加により、前期末に比べ増加。
 負債は、買掛債務の減少がある一方で、借入債務の増加により、前期末に比べ増加。
 純資産は、円高に伴う為替換算調整勘定の減少や配当金の支払等により、前期末に比べ減少。

キャッシュ・フローの概要

(億円)

	2015年度 1Q累計	2016年度 1Q累計	増減
営業キャッシュ・フロー	▲674	▲703	▲28
投資キャッシュ・フロー	▲208	▲130	+78
フリーキャッシュ・フロー	▲882	▲833	+49
財務キャッシュ・フロー	843	784	▲59

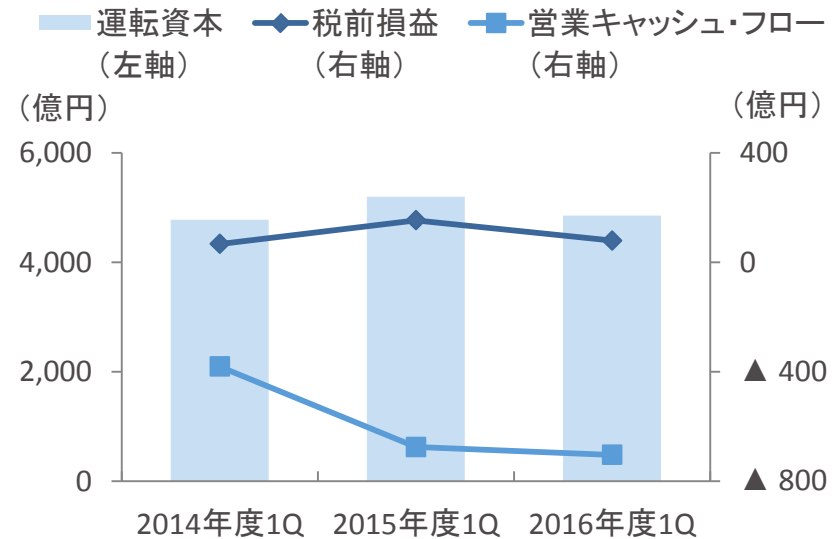
【キャッシュ・フローの概況】

営業キャッシュ・フローは、航空宇宙やガスタービン・機械の運転資金が増加したこと等により、前年同期に比べ減少。

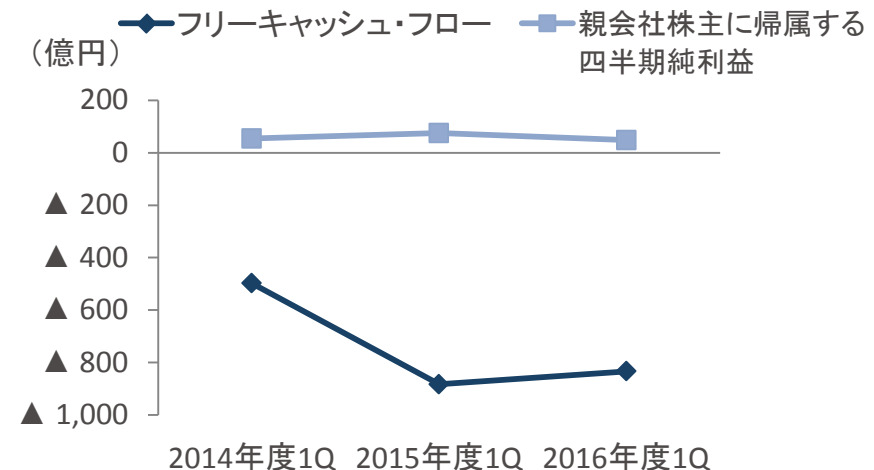
投資キャッシュ・フローは、設備投資の支払が少なかったことや、固定資産売却による収入があったこと等により、前年同期に比べて使用した資金は減少。

この結果、フリーキャッシュ・フローは前年同期に比べて増加。

【営業キャッシュ・フロー等の推移】



【フリーキャッシュ・フローと親会社株主に帰属する四半期純利益の推移】



連結受注高・売上高・利益見通し

(億円) ※2016年4月27日公表値からの変更はありません。

	2015年度 実績	2016年度 見通し	増減
受注高	16,936	15,000	▲1,936
売上高	15,410	15,700	+290
営業利益	959	700	▲259
経常利益	932	690	▲242
親会社株主に帰属する 当期純利益	460	490	+30
税前ROIC	9.4%	8.3%	▲1.1%
ROE	10.6%	11.0%	+0.4%

前期比

【受注高】

前期に大口案件があった航空宇宙の減少等により全体では減少の見込み

【売上高】

船舶海洋、ガスタービン・機械、プラント・環境等を中心に増収の見込み

【利益】

- 生産性向上等収益改善諸施策を継続していくものの、円高の影響および航空宇宙における民間航空機向け分担製造品の収益性の低下等により営業・経常利益は減益の見込み
- 税制改正による繰延税金資産の取り崩しや、ブラジル造船合弁事業にかかる海外事業関連損失が無くなることにより親会社株主に帰属する当期純利益は増益の見込み

実績/前提 レート	ドル (¥/\$)	118.99	110
	ユーロ (¥/EUR)	132.43	125

(参考) 為替影響額

1円の変動による影響額 (億円)

	営業利益	経常利益
ドル	21.0 (24.6)	20.7 (24.9)
ユーロ	1.4 (1.9)	1.9 (2.3)

※括弧内は4月公表時

注) 前提レートは見通し公表時の為替エクスポージャーに対して適用

セグメント別通期業績見通し

※2016年4月27日公表値からの変更はありません。

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2015年度 実績	2016年度 見通し	増減	2015年度 実績	2016年度 見通し	増減	2015年度 実績	2016年度 見通し	増減
船舶海洋	983	1,300	+317	948	1,200	+252	▲79	▲15	+64
車 両	1,321	1,800	+479	1,466	1,450	▲16	92	55	▲37
航空宇宙	4,642	2,300	▲2,343	3,518	3,500	▲18	456	250	▲206
ガスタービン・機械	2,889	2,550	▲339	2,364	2,550	+186	169	135	▲34
プラント・環境	1,387	1,400	+12	1,356	1,550	+194	85	80	▲5
モーターサイクル&エンジン	3,335	3,250	▲85	3,335	3,250	▲85	157	135	▲22
精密機械	1,331	1,450	+119	1,331	1,400	+69	85	100	+15
そ の 他	1,044	950	▲94	1,088	800	▲288	28	40	+12
調 整 額※	-	-	-	-	-	-	▲37	▲80	▲43
合 計	16,936	15,000	▲1,937	15,410	15,700	+290	959	700	▲259

※ 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

セグメント別税前ROIC等の推移

※2016年4月27日公表値からの変更はありません。

	税前ROIC (税引前利益+支払利息)/投下資本)		
	2015年度 実績	2016年度 見通し	増減
船舶海洋	▲38.4%	1.0%	+39.4%
車 両	11.7%	8.0%	▲3.7%
航空宇宙	33.9%	13.5%	▲20.4%
ガスタービン・ 機械	8.8%	6.3%	▲2.5%
プラント・環境	17.5%	16.3%	▲1.2%
モーターサイクル& エンジン	14.1%	10.2%	▲3.9%
精密機械	9.5%	10.8%	+1.3%
合 計	9.4%	8.3%	▲1.1%

営業利益率 (営業利益/売上高)			総資産回転率(倍) (売上高/総資産)		
2015年度 実績	2016年度 見通し	増減	2015年度 実績	2016年度 見通し	増減
▲8.3%	▲1.2%	+7.1%	0.61	0.75	+0.14
6.3%	3.7%	▲2.6%	0.85	0.90	+0.05
12.9%	7.1%	▲5.8%	0.92	0.80	▲0.12
7.1%	5.2%	▲1.9%	0.75	0.70	▲0.05
6.2%	5.1%	▲1.1%	1.12	1.30	+0.18
4.7%	4.1%	▲0.6%	1.36	1.30	▲0.06
6.4%	7.1%	+0.7%	0.93	0.95	+0.02
6.2%	4.4%	▲1.8%	0.95	0.95	0.00

研究開発費・設備投資・期末従業員数

※2016年4月27日公表値からの変更はありません。

(億円・人)

		2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 見通し
研究開発費		416	436	470
設備投資		800	763	980
減価償却費		445	490	560
	国内	26,019	25,897	26,700
	海外	9,452	8,708	9,000
期末従業員数		35,471	34,605	35,700

※ 設備投資額は有形・無形固定資産の新規計上額、減価償却費は有形・無形固定資産の減価償却実施額

オフショア船事業の状況

1. ブラジル造船合併事業

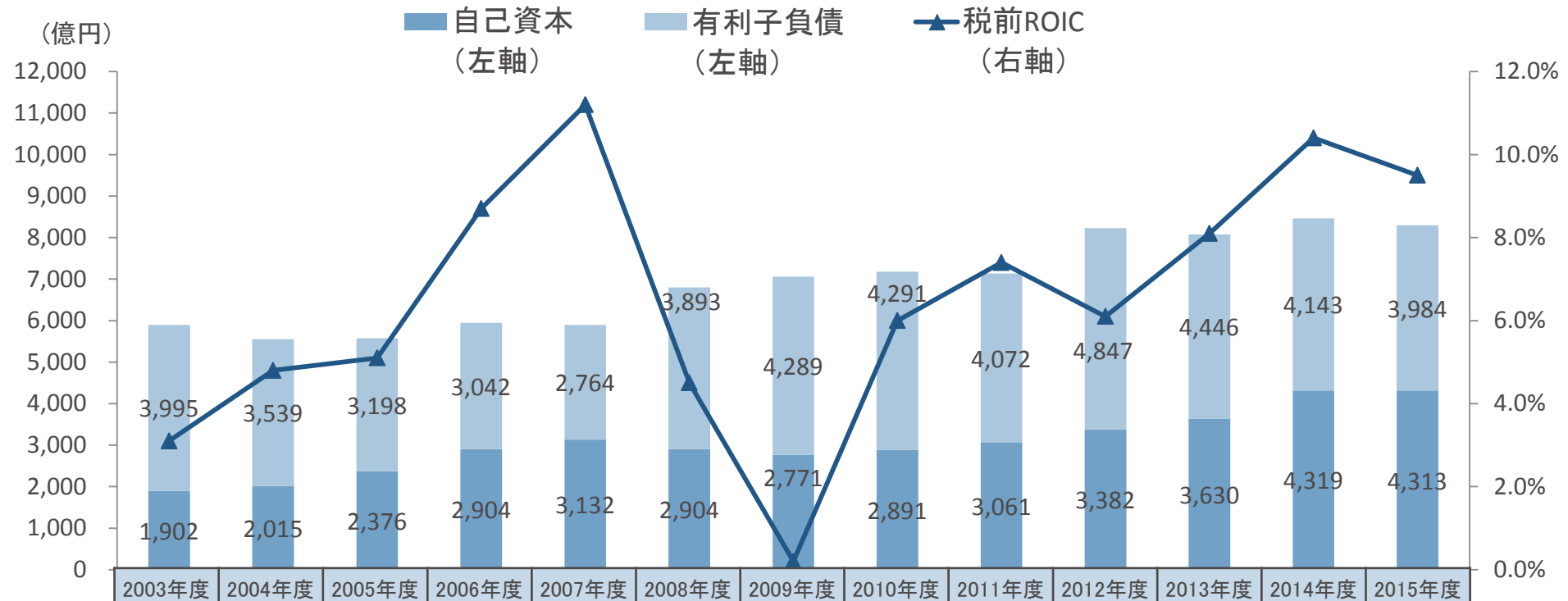
- ドリルシップの発注元の親会社であるSete Brasil は会社更生を申請し、6月13日付で裁判所に受理された。受理後60労働日以内に具体的な再建計画が策定されることになる。
- Sete Brasilの再建計画の内容が、当社の現地合併会社であるEnseadaの経営や、Enseadaが受注し当社が船体部の建造を請け負ったドリルシップ2隻(現在、工事中)の今後に影響することから、現地情報を収集しつつ、今後の対応について検討を行っている。
- 但し、当社は2015年度第3四半期決算において、Enseada向け出資金・貸付金、ドリルシップ船体部にかかる売掛金・仕掛品等を、第三者評価に基づく船体部分に関する回収見込み額(約50億円)を除き、全額損失処理している。
- 尚、当社はEnseadaに関し債務保証を行っておらず、合併契約上追加資金拠出の義務も負っていない。

オフショア船事業の状況

2. ノルウェー向けオフショア作業船

- ノルウェー向けオフショア作業船は現在、設計作業を行うとともに主要機器等の調達を進めている。設計作業の進捗が遅れているものの、今年度中に建造を開始する計画であり、造船契約上の納期内に完工・引渡できる見込みである。
- 本船は、新規の海底油田・ガス田の掘削だけでなく稼働中の油井管のメンテナンスや廃坑作業にも利用可能であり、高い汎用性を有する。ドリルシップ・セミサブリグより小型のオフショア船であり作業コストを低減できるという特長をもっている。
- 原油価格の低迷により、オフショア関連の事業環境が厳しいため、オフショア市場の動向を注視しつつ当面は本船の建造に注力する方針である。

ヒストリカル・データ



	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
税前ROIC	3.1%	4.8%	5.1%	8.7%	11.2%	4.5%	0.2%	6.0%	7.4%	6.1%	8.1%	10.4%	9.4%
投下資本	5,896	5,553	5,573	5,946	5,896	6,797	7,059	7,182	7,132	8,228	8,076	8,463	8,297
売上高	11,602	12,415	13,224	14,386	15,010	13,385	11,734	12,269	13,037	12,888	13,854	14,861	15,410
営業利益	222	247	417	691	769	287	▲13	426	574	420	723	872	959
経常利益	121	210	308	490	639	387	142	491	636	393	606	842	932
親会社株主に帰属する 当期純利益*	63	114	164	297	351	117	▲108	259	233	308	386	516	460

※ 2014年度までは「当期純利益」

為替レート 円/\$	113	108	112	117	115	101	93	86	79	82	99	109	118

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。